

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2070102948		
法人名	医療法人コスモス		
事業所名	グループホームコスモさいなみ		
所在地	長野県長野市小島田町1143-3		
自己評価作成日	平成21年11月6日	評価結果市町村受理日	平成22年2月22日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://aaa.nsyakyo.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2070102948&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社マネットワーク 医療福祉事業部
所在地	長野県松本市両島7-1 オフィス松本堂2A
訪問調査日	平成21年12月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

両ユニット合同の行事やボランティアの受け入れには、スタッフ全員が積極的に取り組みチームワークができています。殊に夏祭りは地域の方々、日頃交流のあるボランティア、小学生の親子、利用者、家族に大勢参加して頂き盛大にできました。コスモ敷地内には、公園や広場、プチャカフェがあり、天気の良い日は敷地内の毎日の散歩が利用者の足腰を鍛え健康を維持する基になっています。1階では犬を飼っておりアニマルセラピーの効果が上がっています。犬のチャチャを中心に笑顔の輪が広がり、皆さん心が癒されています。夏休みには近所の方がチャチャの散歩を手伝ってくれました。日常的に地域の方と交流があり、取れたての野菜を届けてくださいました。2階では、家族や地域の方から古タオルや古シャツなどいただき、雑巾作りに励んでいます。作った雑巾を地域の学校、保育園、ボランティアさんに差し上げて交流に役買っています。また、1年間を通して保育園との交流をしており、両者にとって楽しみになっています。利用者の希望を聞き、外出の機会も多く利用者の生活はかなり満足されています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念に「いつでも笑顔で」と掲げているように、職員・利用者共に、笑顔で、会話を楽しく、明るい雰囲気であり、1階の玄関を入ると飼っている犬のチャチャが出迎え、優しく受け入れてくれて、自然に仲間入り出来る空気が漂っていた。事業所に隣接する法人の敷地の中に公園や広場、プチャカフェがあるという立地条件のため、日常的な散歩が当たり前になっており、周囲には田圃・家並み・果樹園・母体の老健と暮らしのための自然や生活環境が整い、理念の「地域の中の一員として、安心して生活できるホーム」を目指すには最適な環境となっていた。手作りうどんや餃子作り、白うり・梅干しを始めとする各種の漬物、自信や喜び、心身の力の維持向上に繋がる食事作りなど利用者の知恵を精一杯引き出して利用者や職員で作り出す「さいなみ」の温かみで穏やかな暮らしが展開していた。毎月発行する生活記録やたより作り、3か月に1度のケアプランの見直しや本人の意向を聞く「聞き取りシート」作りなど利用者やご家族の「笑顔」や「安心」を生み出すための多大な努力が底辺にあることを実感した。そして、同時にその苦労は利用者の笑い声で、犬のチャチャが寄り添ってくることで救われていることも感じられた。

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)		項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します	
項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域社会の一員として地域の中で暮らしていることを認識して理念を作り、常に意識しながら実践につなげるように努めている。ホーム内に理念を掲げ、管理者も職員も常に確認しあい、月1回のスタッフ会議でも確認しあっている。	「地域の中の一員として笑顔で安心して生活できるよう支援する」という事業所独自の理念を全職員で話し合って作り、壁に掲げたり、月1回のスタッフ会議などで職員の共有化を図りながら実践につなげている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元の小学校との交流、地域の行事に参加したり、ホームの夏祭りにはチラシを配布し、大勢の皆さんに参加してもらっている。また散歩時にはいつも挨拶を交わし、野菜や果物を頂いたり、夏休みを利用して犬の散歩も手伝って頂いた。	日常的な散歩時の地域住民との挨拶、野菜等のおすそ分け、保育園児や小学生との交流、ボランティアや実習生の受け入れなど地域と親しくお付き合いをしている。地域行事に参加したり、事業所行事(夏祭りは盛大に行われている)へ招待、利用者の作った雑巾を学校等に届けるなど双方向的な付き合いとなっている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議などで委員の方に提起し、地域で民生委員の相談にのったり、積極的に受け入れている。地域での集会などにも出席できるように今後働きかけたい。実習生の受入れもしている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、事業所からの活動報告や話し合いを活発に行っており、地域の要望を法人へつなげている。各委員からそれぞれの立場で質問や意見をもらい、サービス向上に活かしている。また、会議での意見をスタッフ会議等で報告し、私達に出来ることは何か話し合っている。	会議は年6回開催し、活動報告や評価などの議題が透明性を持って提出され、活発に意見交換が行われている。そこでの意見等はスタッフ会議で話し合わせ、サービス向上に活かしている。	会議は同法人の経営する別のグループホームとの合同開催となっているが、事業所独自の運営推進会議となるよう、委員と十分に話し合わせ、負担が少なく、気持ち良く出席できるような形を作られることを期待します。さらに利用者も会議に出席出来るよう配慮することを望みます。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進委員の中に市介護保険課担当者や包括の担当者が出席しており、相談したり、実情を伝えたりしながら協力関係を築いている。市の窓口にも、電話で相談したりしている。	年6回事業所で行われる運営推進会議に市の担当者・包括支援センター・あんしん相談員が継続的に参加しているため、その折に事業所の実情を伝えたり、電話での相談も行いながら協力関係を築くよう取り組んでいる。	

外部評価結果(グループホームコスモスさいなみ)

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は夜間と職員の目が行き届かない時間帯のみで基本は開錠しており、利用者が外出しそうな時は一緒に外に出たりして安全面に配慮しながら身体拘束しないケアに取り組んでいる。マニュアルを参照し読み合わせを行い理解に努めている	マニュアルや研修を通じて、拘束しないケアについての職員の意識の共有化は出来ており、玄関は施錠しないで、見守りや連携プレー、時には一緒に付き添うなどしながら抑圧感のない暮らしが出来るよう支援している。毎月報告する生活記録の中にヒヤリハットについても報告し、ご家族にリスクについての理解も得ている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ケア会議の時、日頃のケアのやり方で気づいたことなどを話し合い、不適切なケアをしていないか確認しあい、高齢者虐待防止関連法についても理解に努めている。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は入居希望者で成年後見制度が必要と思われる方や家族に対し、出来る限りの支援や説明をしているが、職員まで浸透しておらず、学ぶ機会を増やしたい。グループホーム連絡協議会などで勉強会があり、参加している。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族に対しては入所時の契約で詳細に説明している。また、年1回以上家族会を開催して、会の中で確認している。利用者には、日常的に関わりの中で理解してもらっている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見を表出できるような雰囲気作りのため家族とのコミュニケーションを大切に、事業所入り口にご意見箱を設置、入居の時にはその説明もしている。また家族会、面会時や電話などで苦情や要望を常に伺うようにしている。苦情受付簿を作成し、再発防止に役立っている	ケアプランの実施状況や日々の生活の様子を記入した生活記録やいろんな表情をした利用者の顔が写ったたよりを送付し、居ながらにして利用者の様子が分かるよう伝えて、ご家族からの安心を得ている。又、家族会、面会時、電話などで苦情や要望を気軽に言ってもらえるようご家族とのコミュニケーションを大切にしている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回のスタッフ会議において、自由に意見を出し合う環境づくりに努めている。また、昼休み等、個別に面談し要望や悩みを聞くようにしている。	管理者と職員はコミュニケーションが良く取られていて、相互に意見や思いを言い易い関係になっていた。管理者は、職員の様子を見て、個別相談したり、個々の努力や実績を評価するなど職員がやりがいや向上心を持てるよう努めている。	

外部評価結果(グループホームコスモさいなみ)

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の個々の努力や実績など、機会あるごとに管理者に報告し、向上心を持って働けるよう心がけている。 疲労やストレス、職員間の人間関係にも話を聞いたり、勤務者の調整などで配慮している。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内外の研修はなるべく参加できるようにしている。研修報告を全員で閲覧している。新人職員には、その職員の力量を把握し、ケアの技術面、業務面、利用者の関わり方など、日常勤務の中できめ細かく指導している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	善光寺ネット連絡協議会が2ヶ月に1度あり、情報交換や勉強会、研修会など開催していて、質の向上に取り組んでいる。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接で生活状態の情報を得たり、入居前ホームでのお茶飲み等、馴染めるような環境作りをしている。入居後、本人の話を良く聴き、不安を取り除くよう努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に家族と良く話し合い、不安な事、困っている事を聞いている。家族が悩みを話せるような雰囲気、関係づくりに努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の思いや状況を確認して何度も相談を繰り返す中で、担当ケアマネとも連絡をとりながら、必要な支援を見極めてサービスにつなげている。 施設内の2グループホーム、老健とも連携している。		

外部評価結果(グループホームコスモさいなみ)

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	得意分野を十分に発揮できるよう、料理・季節の行事など昔からの慣わし等教わりながら生活を共にし、そして一緒に笑い、悩み、泣き、苦しみや不安、また楽しみを分かち合う生活を送っている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の様子を電話や生活記録などで随時家族に報告しながら共に支えていく関係作りをしている。家族と過ごす時間を持ち協力して頂けるようケアプランに盛り込んでいる。(外泊・外出など)		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お盆やお正月の帰省、買物や馴染みの美容室、墓参りなど出来るように支援している。また本人の馴染みの場所へ職員と同行したり、馴染みの人が面会に来られるよう、家族にお願いしている。	お盆や正月には多くの利用者が帰省しており、日頃も馴染みの美容院や自宅、墓参りにご家族の協力が出掛けたり、電話の取り次ぎ、年賀状や手紙の代筆、絵手紙作品の発送などこれまでの暮らしの継続性を維持するよう取り組んでいる。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	暮らしの中で築いた人間関係を尊重し、仲の良い利用者同士の席を近くにしたり配慮しているが、相性や認知レベルの違いで孤立する入居者もあり、職員が常に気を配り調整役になって支援している。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設へ移られた方へは時々面会に行ったり、家族にお会いした時や電話等で様子を聞いている。関係先へは生活状況等、情報提供している。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン更新の際、本人より話を聞き希望や意向を把握している。困難な場合は家族から話を聞いたり、ケアスタッフが生活パターンなどの把握に努め本人本位に考え検討している。	3か月に1度「聞き取りシート」で利用者の素の思いや意向を聞いて、利用者の「今」の思いを把握し、事業所として出来ることを検討している。日々の関わりの中での言葉や表情、ご家族やケアマネの情報などから、利用者がどんな暮らしを望んでいるか把握するよう取り組んでいる。	

外部評価結果(グループホームコスモスさいなみ)

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に家族も含め面談したり、訪問調査にて情報収集している。家族に生活歴を書いて頂いたり、聞き取り調査を行っている。本人との日常の会話で生活環境を聞いたりし把握に努めている。(センター方式も使用)		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの生活リズムを把握し、本人の意思を尊重し無理せず出来ることを行っている。また、本人が発する言葉や態度で気づいたことをケア記録に記入して職員が共有しケアに活かしている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の担当が中心になってアセスメント 家族の意向・入居者の意向も出来る限り反映させたケアプランを職員全員で話し合い作成している。	センター方式や思考展開シートなどにより利用者やご家族の意向を把握して、アセスメントし、全職員で話し合いながら、その人らしく暮らし続けるための介護計画を作成している。毎月担当者を中心に実施状況や評価を行い、3か月に1度プランの見直しを行っている。心身の状況変化に応じての臨機応変の見直しも行われている。ご家族には面会時などに説明し、了解を得ている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録には生活の中で発した言葉や様子などを記録し、勤務開始前に確認をしている。また、申し送りノートやホワイトボードを活用し、情報を共有しながらケアやケアプランの見直しに活かしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	専門外来受診時など家族の対応が困難な時は職員が付き添い、病状説明している。また、リフト車など必要な時はデイケアより借り送迎している。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防訓練時には地元の消防団や消防署の職員に来て頂いている。また、運営推進会議に地域包括の職員、民生委員、消防団長に参加して頂き、地域の情報を得、協力関係を築いている。多くのボランティアさんにも訪問してもらっている。		

外部評価結果(グループホームコスモスさいなみ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	それぞれの希望に応じ、かかりつけ医の受診の支援を行っている。主治医が専門医受診が必要と認めた時には家族に相談し、同行が困難な時は職員が通院の同行している。	利用者のご家族の希望により、事業所の協力医療機関の医師がかかりつけ医となり、2週間に1回の往診、年1回の検査、緊急時の対応を行っている。協力医療機関が事業所の近くにあるので適切な医療の出来る環境が整い、ご家族からの安心を得ている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護との契約に基づき、週一回の訪問により日頃の健康管理や医療面での相談、助言、対応を行ってもらっている。体調や些細な表情の変化を見逃さないように早期発見に取り組んでいる。緊急時は24時間対応できる体制が整っている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が入院した際は見舞いに行っている。また早期退院に向けて病院関係者との情報交換や相談に努めている。過去に入院された方は早期退院され、今も元気にホームの生活が継続されている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「重度化の指針」を作成し、家族に説明し同意を得ている。重度化になった際は家族・医師・看護師・職員と入居者の今後について十分に話し合いを行っている。本人にも機会があるごとに意向を聞いている。	重度化や終末期に対する指針があり、利用者やご家族に説明し、同意を得ている。ご家族・職員・医師等の連携や協力を得られる体制になっており、事業所として出来ること・出来ないことについても充分説明している。母体の老健との有機的な関係を活用しつつ、利用者にとって安心し、納得できる最後であるよう支援する姿勢である。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訪問看護師による応急手当講習会を年一回受けている。また、職員の中に救急救命の研修会に出席し伝達講習をしている。急変時のマニュアルを作成し、全員が周知している。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の昼夜間想定消防訓練を行っている。消防署と地元消防団の協力を得て通報・避難・誘導訓練消火器使用の消火訓練を行っている。又、災害時の講習も消防署員を講師に迎え行った。	年2回、昼・夜想定(1回ずつ)で消防署や消防団の協力を得て、訓練(通報・避難・消火)を全職員参加の下で行っている。自動通報装置などの防災設備、消火器などの使用訓練、母体の老健の協力体制など災害への備えは整っていた。	職員が1名になる夜間の対応が一番不安であり、その不安が介護に影響することもあり、さらに2階に1ユニットあり避難が階段対応となり困難も多く、それらの不安を少なくするため、避難誘導のイメージトレーニングを頻度よく実施されることを期待します。

外部評価結果(グループホームコスモスさいなみ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉がけや対応をしている	援助が必要な時もまず本人の気持ちを考えてさり気ないケアを心がけたり、本人の自己決定できる声がけに気をつけている。	ケアの中での声掛けは、誇りやプライバシーに配慮して、さりげなく、その利用者にあった伝え方をしよう心掛けている。管理者から、又、職員同士で日々の生活の中で気付かずにしてしまう配慮に欠けた言動については注意し合うようにしている。個人の書類は鍵の掛かる収納庫に保管されていた。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりの状態に合わせて、本人の気持ちを大切に、答えの出しやすい声がけを行っている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その時の本人の状態や気持ちを尊重し個別の援助を行っている。散歩やレクリエーション、休憩は個々に行っている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で選ぶことができる人は本人が洋服を選んでいるが、季節に合わない洋服のときはアドバイスをしている。意思決定が困難な方には、職員が本人に聞いて選び着用してもらっている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の希望を聞いてメニューに取り入れている。調理・盛り付け・片付けなど職員と入居者が共に行い職員と入居者一緒に食事をしている。	調理から食器拭きまで職員と一緒にいき、事業所の畑で採れた野菜やおすそ分けて頂いた食材を利用するなど、食事が身近なものになるよう努めている。利用者の知恵を活かして、得意とする手作りの物、身体が覚えている各種の漬物など食事全体が利用者の自信や楽しみに繋がるよう支援している。食事中は穏やかなBGMが流れ、ゆったりと食事が出来るよう配慮されていた。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量や栄養バランス・水分量を個別に取れるよう支援している。水分量の少ない人には声がけや内容を工夫し提供している。栄養士に定期的にアドバイスを受けている。		

外部評価結果(グループホームコスモスさいなみ)

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	スタッフ全員が口腔ケアの重要性を認識しており、口腔状態や力量に合わせ個別に口腔ケアをしている。義歯利用者は週一回洗剤を使用し、清潔を保っている。		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人の状態に合せ夏場は布パンツを使用したり、トイレの声かけの工夫で排泄の支援をしている。生活のリズムの中の区切りでトイレの声かけを個々に行っている。また、排泄チェック表を使用し尿意のない利用者には時間を見計らって誘導している。	排泄に関しての羞恥心や不安を軽減するよう配慮しながら、利用者個々の排泄パターンや様子・サインによりトイレ誘導や声掛けをし、排泄の自立に向けた支援をしている。寝てしまうと、なかなか立ち上がれないため、夜間のみおむつをしている利用者もいた。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄パターンを記録し、食事も乳製品や野菜、食物繊維類、水分を多く摂ったり、適度な運動や散歩したりと便秘予防に取り組んでいる。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者の状態に合わせて、一人入浴や介助をしている。自立している方は仲間でゆっくりおしゃべりしたり歌ったり楽しんで入浴している。	1階が火・木・土、2階が月・水・金曜日の午後(PM3:30~5:00)の週3回、全利用者が入浴している。浴槽が広いので、2~3名でゆっくり、おしゃべりしたりして入浴を楽しむ方も居る。菖蒲湯やゆず湯などの季節を味わえる試みもしている。冷え性の方にはゆっくり入ってもらったり、足湯対応するなど個々にそった支援もしている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を増やしたり、夜勤者が個々の状態に合わせて休む前に寝具を整えたり更衣困難な方にはパジャマ更衣の介助しゆっくり休んで頂いている。また、寝付けない方には暖かい飲み物を提供したり、心休まるよう傍らでゆっくり話をしたり配慮している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルを作成し職員が入居者一人ひとりの内服している薬を把握できるようにしている。服薬時には手渡しし、内服の確認も行っている。処方の変更があった時には申し送りして周知し、状態観察をしている。		

外部評価結果(グループホームコスモスさいなみ)

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	料理・裁縫・編物・畑仕事などの得意分野で力を発揮できるように場面作りをしている。季節の行事を企画し参加して頂いている。外出の希望でドライブ、散歩の途中でプチカフェに寄り、コーヒーを楽しむ等支援をしている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は近くの公園へ散歩に、また利用者の希望に応じてドライブ、外食に行っている。また家族の協力を得て外出、帰宅、温泉等へ行っている。	事業所に隣接する法人の敷地内に公園や広場があるので日常的な散歩が当たり前に行われている。ドライブや外食、弁当持参の外出、季節ごとの花見や催し物の見物、家族の協力による墓参りや温泉行きなど戸外に出掛ける機会を多く持つように取り組んでいる。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金の所持したり使えるように支援している	金銭の管理は事業所で行っているが、買物に行った際は自分でお金を支払って頂けるようにお金を手渡しするなどしている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎年年賀状を作成し家族へ送っている。家族から本人へ電話が来た際には居室にて話してもらったり、本人の希望で電話したいときには支援している。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	冷暖房や湿度には常に気を使って温度変化や乾燥に気を配っている。加湿は洗濯物をフローアに干したり加湿器を使用し調整している。入居者と一緒に畑や散歩中で摘んだ季節の花々を飾っている。また、冬にはおこたつを作っている。	居間兼食堂・台所は一体のフロアとなり、調理を一緒に行うには良い空間であり、居間兼食堂の掃き出し窓からの採光も良く、1階はこたつ、2階は電気カーペットをソファで囲み、団欒の間を作り、和やかな語らいがあった。壁には季節を感じさせる飾り物や行事等の数々の写真が掲示され、思い出話に事欠かない環境を作っていた。窓からは田圃や家並み、ベランダには花や植物が見られ、穏やかで、当たり前の暮らしの空気が流れていた。冷暖房や湿度への配慮が徹底され、感染症に対する心遣いが感じられた。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビの近くや廊下、玄関先にソファやベンチを置き一人で過ごしたり、仲の良い人同士で話ができる空間作りをしている。フローアには生活の中の様子が解る写真を飾り、会話が弾むように工夫している。		

外部評価結果(グループホームコスモスさいなみ)

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用されていた寝具やタンスなど持ち込む事によって居心地良く過ごしてもらえるように家族に説明し配慮して頂いている。居室に家族の写真やカレンダーを飾ったりしている。また、仏壇を持ち込まれている方もおり、居心地よく過ごせる工夫をしている。	ベッドとタンスは事業所で用意したが、寝具や物入れなど利用者のご家族で、思い思いの馴染みの物を配置して、その人らしく暮らしていけるような部屋作りがされていた。仏壇や写真、A4判写真用紙に笑顔一杯のナップ写真が掲載された誕生祝い、利用者の写真入りカレンダーなど、その人だから過ごせる部屋になっていた。部屋作りや居室に入る時は利用者の同席を求めなど、居室は利用者の物であるという事業所の基本姿勢が感じられた。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室に名札を貼って迷わないように工夫したり、トイレや浴室などわかりやすい表示をしている。自立して生活が出来るように物の配置には気を配っている。		